

再審査に当たり意見を聴取する動物用医薬品の概要について

1 鶏伝染性ファブリキウス嚢病(抗血清加)生ワクチン(バーサ・BDA)

(1)主成分

弱毒伝染性ファブリキウス嚢病ウイルス 2512 G-61 株

抗伝染性ファブリキウス嚢病ウイルス(I型)鶏血清

(2)対象動物

鶏

(3)用法及び用量

(卵内接種)

ワクチンを日局生理食塩液で 1 羽分当たり 0.05mL になるように溶解し、自動卵内接種機を用いて、18～19 日齢の発育鶏卵内に、1 個当たり 1 羽分を接種する。

(頸部皮下接種)

ワクチンを日局生理食塩液で 1 羽分当たり 0.2mL になるよう溶解し、初生ひなの頸部皮下に、1 羽当たり 1 羽分を接種する。

(4)効能又は効果

鶏伝染性ファブリキウス嚢病の予防

2 アクチノバシラス・プルロニューモニエ(1・2・5型)感染症・豚丹毒混合(油性ア
ジュバント加)不活化ワクチン(“京都微研”ピッグウイン-EA)

(1)主成分

豚丹毒菌 Kyoto 株 NaOH 抽出抗原

アクチノバシラス・プルロニューモニエ Y-1 株(血清型 1 型)培養上清濃縮抗原

アクチノバシラス・プルロニューモニエ G-4 株(血清型 2 型)培養上清濃縮抗原

アクチノバシラス・プルロニューモニエ E-3 株(血清型 5a 型)培養上清濃縮抗原

(2)対象動物

豚

(3)用法及び用量

約 30～50 日齢豚の耳根部後方頸部筋肉内に 1mL 注射する。その後 90
日齢までに約 30～60 日間隔で反対側の耳根部後方頸部筋肉内に 1 mL
注射する。

(4)効能又は効果

豚丹毒及びアクチノバシラス・プルロニューモニエ血清型 1, 2, 5 型菌感染症
の予防

3 マイコプラズマ・ハイオニューモニエ感染症(カルボキシビニルポリマーアジュバント加)不活化ワクチン(レスピフェンドMH)

(1)主成分

マイコプラズマ・ハイオニューモニエ P-5722-3 株

(2)対象動物

豚

(3)用法及び用量

生後 1～4 週齢の子豚に本品 2 mL を 2 週間隔で 2 回、頸部筋肉内に注射する。

(4)効能又は効果

豚マイコプラズマ性肺炎による、肺病変形成及び増体重抑制の軽減

4 鶏コクシジウム感染症(ネカトリックス)生ワクチン

(日生研鶏コクシ弱毒生ワクチン(Neca))

(1)主成分

Eimeria necatrix Nn-P125 株オーシスト

(2)対象動物

鶏

(3)用法及び用量

本剤は 3 日齢～ 4 日齢の平飼い鶏を対象とし、その飼料に混合して 1 回投与する。本剤 1 羽分 (0.02 mL) をひなの日齢に応じた 1 日当たりの給餌量の約 1/5 ～ 1/10 量の飼料に混合する方法で、本剤の均一な混合飼料を調製する。混合飼料の約 100 羽分ずつを市販の給餌器 (縦 45cm × 横 60 cm の平底型、面積 0.27 m²) に分配し、分配した羽数分に相当するひなに投与する。ひなが混合飼料の摂取を完了した後、残量の飼料を給与する。

(4)効能又は効果

アイメリア・ネカトリックスによる鶏コクシジウム症の発症抑制